

大豆情報

(第3号)

あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

「排水対策の徹底」、「適期の病害虫防除」、「適切な畦間かん水」で
収量・品質を高めましょう！

1. 2回培土と排水対策の徹底 ～生育量確保のため、培土は確実にいきましょう！～

降雨の影響により、培土作業が遅れています。晴れ間をみて速やかに培土を実施しましょう。
また、排水溝を点検・補修し、ほ場の停滞水の排水に努めましょう。

2. 病害虫防除 ～適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

○紫斑病や害虫防除のため、**2回の基本防除は適期に確実に**行うとともに、カメムシ類、チョウ目幼虫等は発生状況に応じて適期に防除しましょう。

防除体系	防除時期の目安	対象病害虫	【液剤体系】 薬剤名	10a 当たり 散布量	【粉剤体系】 薬剤名	10a 当たり 散布量
基本 (1回目)	8月上中旬 (開花期～若莢期)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	プランダム乳剤25(4,000倍) (開花期～収穫7日前まで) カスケード乳剤(4,000倍) (収穫7日前まで)	150ℓ	トライトレボン粉剤DL (収穫14日前まで)	4kg
基本 (2回目)	8月中下旬 (1回目の10～14日後)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	アミスタートレボンSE (1,000倍) (収穫14日前まで)	150ℓ	Zボルドー粉剤DL ダントツH粉剤DL (収穫7日前まで)	3kg 4kg
随時	7月下旬～8月上旬 8月下旬～9月上旬	ウコンノメイガ (ハマキムシ) マメシクイガ	プレバソフフロアブル5 (4,000倍) (収穫7日前まで)	150ℓ	—	
随時	8月下旬～9月上旬	フタスジヒメハムシ カメムシ類	カスケード乳剤(4,000倍) (収穫7日前まで)	150ℓ	スタークル粉剤DL (収穫7日前まで)	3kg
随時	8月下旬～9月中旬	ハスモンヨトウ カメムシ類 マメシクイガ	トレボン乳剤(1,000倍) (収穫14日前まで)	150ℓ	—	
随時	7月下旬～8月上旬 (発生初期)	葉焼病	Zボルドー(500倍)	100～ 300ℓ	—	

3. 畦間かん水 ～開花期から9月上旬までの畦間かん水により干ばつ回避～

- 開花始め（7月下旬）から9月上旬までの40日間は、**大豆が最も水を必要とする時期**です。
- 水不足は莢数や収量の減少を招き、莢先熟（青立ち）やしわ粒の発生を助長することから、**3日以上晴天日が続く場合は、土壌の乾きに応じて短時間で畦間かん水を行きましょう。**
- かん水は、**ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかりと止め、速やかに排水してください。**

【畦間かん水の効果】

- ・根粒の活性を維持
- ・稔実莢数、百粒重の確保
- ・莢先熟(青立ち)の発生防止
- ・しわ粒の発生軽減



梅雨明け後、暑い日が続いたら、積極的に畦間かん水を行きましょう！



裏面に続く

4. 雑草防除

- 除草剤を使用する場合は、雑草の種類及び生育状況、大豆の生育状況から判断し、適期を逃さずに散布しましょう。
- 畦間・株間処理（太枠内の除草剤）は、薬剤が大豆に付着すると葉が黄化する等の薬害が発生するため、大豆に直接かからないよう吊り下げノズルを使用するとともに、風向きに注意して散布してください。

薬剤名	対象雑草	10a 当たり散布量	使用方法	使用時期	使用回数
ポルトフロアブル	1年生イネ科雑草 (スズメカビラを除く)	薬量 200～300mℓ (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 または全面散布	イネ科雑草 3～10 葉期 ただし、収穫 30 日前まで	1回
大豆バサグラン 液剤	1年生雑草 (イネ科雑草を除く)	薬量 300～500mℓ (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	雑草生育初期～6 葉期まで ただし収穫 45 日前まで	1回
ロックス (水和剤)	1年生雑草	薬量 100～200g (水 70～150ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 (畦間・株間処理)	本葉 3 葉期以降(雑草生育期) (雑草草丈 15cm 以下) ただし、収穫 30 日前まで	1回
ザクサ液剤	1年生雑草	薬量 300～500mℓ (水 100～150ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	本葉 5 葉期以降 雑草生育期 ただし、収穫 28 日前まで	3回

【難防除雑草（帰化雑草等）の ほ場へのまん延防止対策】

近年、管内でも帰化アサガオ類等の難防除雑草の発生が増えています。大豆ほ場への侵入・まん延を防ぐため、こまめに見回り、種子ができる前に除草しましょう。



イヌホオズキ



マルバルコウ



アメリカアサガオ



ママアサガオ

ほ場内で難防除雑草を発見したら、結実前に抜き取るか、または有効な除草剤を使用して対処するとともに、これ以上雑草がまん延しないよう、以下の点に留意して作業を行いましょう。

- ① 抜き取った雑草はそのまま放置せず、ほ場外で適切に処理する。
- ② 刈り払う場合は再生防止のために地際から行う。（雑草は、ほ場外で処分する）
- ③ 種子が結実してしまった場合、収穫後のすき込みは実施しない。（地表面に落下した種子をそのまま放置し、発芽能力を低下させる）
- ④ 難防除雑草が発生しているほ場の作業は、可能な限り最後に行う。（トラクター、コンバイン等で種子を移動させないため）
- ⑤ 機械の清掃を徹底する。
- ⑥ 粗選別時のゴミは、ほ場外で適切に処分する。

除草方法等については、各営農経済センターにご相談ください。

☆とやま GAP（富山県適正農業規範）に基づき、安全に作業しましょう。

☆「守ろう 農薬ラベル 確かめよう 周囲の状況」 富山県農薬危害防止運動実施中(4/1～9/30)

☆熱中症対策をしっかりと行いましょう。

大豆情報第4号は、9月下旬の発行予定です。